

# 先進事例を見る

全国中央会では、中小企業や中小企業組合関係者が、新たな共同事業の実施や組織体制の見直し等を行う際の参考になるよう、都道府県中央会と連携し、毎年テーマを決めて共同事業等に先進的に取り組んでいる組合事例を収集している。昭和57年度より事業がスタートし、これまでに収録した組合事例は6,000組合を超えています。

毎年、詳細な調査・分析を行い、これをもとに組合事例のエッセンスを取りまとめ、報告書（先進組合事例抄録）及びホームページで公開しています。

今回は、平成29年度の先進事例（組合資料収集加工事業）から「後継者の育成/技術・技能の継承/人材確保・育成」について調査いたしました「山形県自動車車体整備協同組合」をご紹介します。

## 山形県自動車車体整備協同組合

### — 先進安全自動車対応講習会によりレベルアップを図る —

住 所	(〒990-2161) 山形市大字漆山字行段1422				
電話 番号	023-686-5444	F	A	X	023-678-4406
設 立	昭和58年7月	出 資 金	3,930千円		
主 な 業 種	自動車板金塗装業	組 合 員	131人		

#### ■背景と目的

近年、先進安全自動車(ASV)や軽量化ボディの自動車が急速に増加し、ディーラー以外の整備工場においてもこれらに対応した高度な整備が要求されている。こうしたなか国土交通省や日本自動車車体整備協同組合連合会の支援を受け、ASVに対応した学科と実技の講習会を開催することで組合員の人材育成を図ることとなった。

#### ■取組みの手法と内容

①高度化自動車車体整備技能学科講習(山形市と庄内町で開催)、②高度化自動車車体整備技能実技講習(山形市で開催)、③アルミニウム合金素材板金工法講習(山形市と米沢市で開催)を実施した。事業にあたっては、青年部会と車体教育委員会が中心となって企画立案し、組合事業として取り組むことを決め、参加者募集を行った。実施会場は、山形県自動車整備振興会技術講習所、公的施設、職業能力開発専門校、賛助会員企業の施設等を利用することで、費用負担を抑えた。各メーカーのASVについて体系的に学ぶことのできる教本を購入して使用し、技能については登録台数の多いハイブリッド車などの実車を使用して実施した。③については自動車車体整備士資格取得者だけではなく無資格工具も幅広く講習を受けられるようにし、また受講料については、組合員と非組合員に差をつけて設定した。実技と学科の講習を受講した自動車車体整備士取得者には、日本自動車車体整備協同組合連合会会長より修了書を発行し、参加者の意識向上とPR効果を高めた。

#### ■成果とその要因

高度化自動車車体整備技能講習については60名近い参加があり、メーカーにより異なるASV関連の知識・整備技術について、総合的かつ体系的に学ぶことのできる貴重な機会となって、組合員整備工場のレベルアップにつながる事が期待される。講習にて使用した教本や、講師の質が高かったことも効果を高めることにつながった。



技能実技講習



座学研修



#### 事業・活動 実現のキーファクター

高度化自動車への対応が必須であることを認識して事業に取り組んだこと、国・県や上部団体と連携したこと、学科と実技を有効に組み合わせて実施したことが成功要因である。